

公益財団法人 未来のつばさ財団
特定非営利活動法人 エキスパート児童福祉支援協会

未来のつばさ

INDEX

P.2 特別寄稿

株式会社フェアスタート 代表取締役
特定非営利活動法人フェアスタートサポート(2013年1月設立予定)
代表理事 永岡 鉄平

自信を持って「やる気」を武器に
自らの未来を切り開いていって欲しい、
そのための力とチャンスは皆にある

P.3 先輩からのメッセージ

社会で活躍する先輩たち

P.4 特集 未来へはばたく子ども達

P.6 紹介ひろば

児童養護施設 歌棄洗心学園

P.7 事務局だより

ご報告
「子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー」に出展しました

ご協力に感謝!!

書き損じはがき回収によるボランティア活動

P.8 2012年度 育英奨学・自立支援資金 応募要項

申請受付から選考、支援完了までのプロセス

Vol.15
2013.1

自信を持って「やる気」を武器に 自らの未来を切り開いて欲しい、 そのための力とチャンスは皆にある



「若者と雇用」のあり方が、特に中小企業の世界で大きな転換期を迎えようとしています。大学全入時代が表すように二人に一人が大学に進学する時代。しかし、その背景にはお金だけ払えば大学進学ができるという「広くなりすぎた大学の門戸」があります。その結果、なんとなく大学に進学し、特に何がしたいかも良く分からないまま卒業し、形だけの「大卒」という肩書を武器に就職活動をするけれど、試験に受からず就職できない、就職できたとしても打たれ弱く長続きしない、そんな大卒者が増えています。企業からしても、仕事は新人でたいしてできないのに、やる気もあまり感じられず、プライドばかり高く扱いづらいというのが本音のところ、中小企業をはじめとした多くの企業が、やる気のある若者は

どこに行ってしまったのか、経験や知識なんて無くて構わない、やる気さえあれば、会社がきちんと育てるのに。そうした企業の声が増えてきました。

社会的養護の子ども達の魅力であり武器の一つは、18歳で自立しなければならない宿命から生まれる自立心、就労意欲です。企業が求めているのはまさにそれで、それがしっかり持てていればチャンスは必ずやってきます。施設出身者は住み込みで働く、高校の求人でも就職活動をしなければならない、そうした今までの慣習を是非打ち破って、自分の可能性を信じて、なりたい自分をつかんでください。フェアスタートの就職支援で就職した施設出身の若者は、企業からの評価も高く、大絶賛を受けています。自信を持っていい！皆さんの未来を応援しています。



永岡 鉄平
株式会社フェアスタート 代表取締役
特定非営利活動法人フェアスタートサポート
(2013年1月設立予定) 代表理事

profile

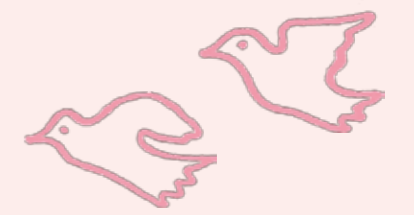
1981年横浜市生まれ。明治学院大学卒業後、リクルートで求人広告の法人営業を2年間勤めた後、大学院生専門の就職支援会社の立ち上げに参画し、幹部として約3年間経営に携わる。学生の就職支援を行う中で、若者と雇用の現状に社会的課題を感じ、2009年にサラリーマン生活に終止符を打ち、起業準備へ。準備期間に、児童養護施設の子供達と出会い、働く意欲が高いのに、低学歴・保証人・偏見などの問題でワーキングプアとなる確率が高い彼らの現状を「もったいない」と感じ、児童養護施設等の子ども達・若者達の就職支援を行う、株式会社フェアスタートを2011年8月に起業。2013年1月にはNPO法人フェアスタートサポートも設立予定。
<受賞歴>第1回社会起業プランコンテスト(内閣府地域社会雇用創造事業)最優秀賞




先輩からのメッセージ

社会で活躍する先輩たち

育英奨学・自立支援資金の支援を受け、社会人として成長している先輩から、今まさに施設を巣立っていかようとする子ども達へのメッセージです。



諦めないでほしい 2007年度支援 里親家庭 高橋 成貴(会社員)




私は高校3年になって進路に悩みました。「大学さえ出ていれば何とかなる」「同じような境遇の子ども達の為に何かできないか」と思い、福祉大学進学を選びました。大学1年の時、元里母が亡くなりショックで大学にもあまり行かず、お金もなく友達付き合いも悪くなり、辞めようかとも思いました。しかし、元里親をはじめ多くの方々の支えがあり、卒業して無事に就職できました。この時ようやく分かったことがあります。それは、これまで多くの支えがあったことや、大学での4年間という成長するチャンスを得ることができたことです。最後に一言。夢があるなら何でもチャレンジしてほしいと思います。簡単に聞こえるかもしれませんが、やりたい事があるのは素晴らしいことです。夢を叶えるのに進学しなくてはいけなくても、諦めないでほしいと思います。社会的養護のもとで育っても、「進学したい」と案に言えるような社会になってほしいと願っています。

里親家族より

成貴は、幼児期から高校卒業まで2つの里親家庭で生活し、奨学金とアルバイトでやりくりして一人暮らしをしながら大学を卒業しました。親からの仕送りなどで悠々と学生生活を謳歌する学生もいる中で、辛い思いもしていたようですが、周囲に流されることなく本当によく頑張ったと思います。週末などに帰ってきて、充実した生活を送っている様子を見せてくれることが、嬉しくて仕方ありません。

元里親 渡邊 守さん

今の生活を大切に 2007年度支援 伊奈美園退園生 河口 晴奈(不動産会社勤務)




小学1年生から高校3年生までの12年間、施設でお世話になりました。それから4年の大学生活を経て、今は新入社員として仕事に励んでいます。皆さんは今、楽しく日々を過ごしていますか？時には施設の生活や決まりを窮屈に感じることもあるかもしれませんが、例えば掃除、洗濯、食器洗い当番…普通には無い決まりがたくさんある中で、「もっと遊びたい」などいろんな気持ちが当然あると思います。私自身、そう思うこともありましたが、しかし、「やりたくないことでもきちんとやる」ということを教えてもらったお陰で、今では根気強く取り組む事ができています。今は嫌だと感じることもきちんと向き合ったり行ったりすることで、社会に出たときに辛いことがあっても負けない強さをしっかり持つことができます。そして、その強さは施設で生活しているからこそ得られるものです。だから、いつも感謝の気持ちを忘れず、生活して欲しいと思います。

施設職員の方より

河口さんは、明るい笑顔の中にも芯がしっかりして、子ども達はもちろん職員からも頼りにされる存在でした。高校卒業時に卒園し、隣県にある富山大学に進学しました。成人式や大学卒業など区切りの時期に遠いのにわざわざ園まで挨拶に来てくれました。今度は結婚の報告を楽しみにしています。いつまでも素敵な笑顔と優しい気持ちを忘れず仕事に励み、姉・弟と力を合わせ充実した生活を過ごしてほしいと願っています。

伊奈美園 主任指導員 田中 孝先生

感謝 2007年度支援 愛信学園退園生 井ノ元 雄(会社員)



私は中学3年生の1月に愛信学園に入所しました。高校入試が目前に迫ってきており、さまざまな不安の中、先生方や周りの方々に支えていただいたおかげで無事合格することができました。高校3年間で自分の目標を持つことができ、就職にもつながりました。今では、仕事場で副センター長として働いています。在園していた頃は、迷惑や心配をかけることもありましたが、しかし、先生方の温かい言葉、時として厳しい言葉は社会人となった今でも生かされており、これらの経験があったからこそ今の自分があるのだと思います。在園している皆さん、人生は一度きりです。友達や先生方の意見等を聞き、自分の気持ちに正直でいてください。今を大事にしていると道は開かれると思います。そして、感謝の気持ちを忘れずに頑張ってください。

施設職員の方より

ヤマト運輸に就職し、現在は副センター長として頑張っています。在園時は年下の子の面倒見が良い優しい性格でしたが、悪ふざけも多くなりました。仕事は相当ハードらしく、時々学園に顔を見せに来るときに愚痴をこぼすこともありましたが、その顔つきが頼もしく変わって成長している姿を見て、私たち職員も力を貰っています。これから、もっとさまざまな経験を積んで大きく成長してほしいと願っています。

愛信学園 井上 俊先生

未来へはばたく子ども達

社会の厳しさと喜びを実感し、多くの人に支えられているという感謝の気持ちを改めて感じている、たくさんの子どもの近況が届いています。



不安でいっぱいだった一人暮らし

■東京都 東京恵明学園 出身 育英奨学支援

私は大学に通いながら一人暮らしをしています。一人暮らしをはじめ一週間は、今まで経験したことのないような不安でいっぱいでした。ご飯の作り方や洗濯の仕方など今まで養護施設の職員がやってくれていたこと全てを自分一人でやらなくてはならなくなったからです。初めは失敗も多く大変でしたが、今ではあたり前のように一人でできるまでに成長しました。また、休日にはいろいろなボランティア活動にも参加しています。自分の将来の夢は児童養護の道だけだと考えていましたが、知的障がい者との交流ボランティア活動の中で、違う世界にも興味を持つことができました。これから勉強やボランティア活動、私生活を充実させていきたいと思っています。

施設職員の方より

本児は短期大学へ進学し、将来福祉の分野での就労をめざし努力をしております。一人暮らしをしながら学業に励む生活にもかなり慣れ、成績も努力した結果良い成果を修めました。ボランティア活動や実習を通し、将来を考えている様子で、施設にも近況を報告してきます。夏休み中施設の園児とともに震災ボランティアで陸前高田市へも行きました。今後アルバイトもはじめ、自立生活が順調に進むよう支援していきます。

たくさんの資格取得をめざして

■熊本県 菊水学園 出身 自立支援

仕事はとても忙しく、さまざまなトラブルなどで分からないこともまだまだたくさんありますが、周りの先輩とコミュニケーションを取りながらなんとか毎日を乗り切っています。休みの日は同期の友だちや同じ工程、高校の先輩などと花火大会に行ったり、ボーリングやカラオケに行ったりして充実した毎日を過ごしています。また、8月には自動車の運転免許を取得することができました。これからは、もっと大変なことやつらいこともたくさんあると思います。しかし、社会人になったので自分で乗り切れるように努力し頑張っていく予定です。会社でまだまだ資格取得もたくさんあるので、もっと勉強してたくさんの資格取得をめざして頑張ります。

施設職員の方より

お盆には「ただいま帰りました」といつもの明るい声で施設に帰ってきました。少し髪をのびして、少しばかり都会の雰囲気も漂わせてはいましたが、すぐに半年前の彼に戻りました。先輩や同僚の方に可愛がられ、充実した毎日を送っているとのこと安心しました。支援金に込められた多くの方たちの励ましのお気持ちに応えられるよう、感謝しながら頑張っています。

自衛官として働いていることに感謝

■北海道 北光学園きずなホーム 出身 自立支援

自分は今、自衛官として働いていることに心から感謝しています。自分が自衛官として、今まで続けられているのも北光学園の仲間たちや職員・ともに働いている上司・同期のおかげだと思っています。入隊当時の自分は、自衛隊の厳しい規則に嫌気がさしていました。ですが、学園にも規則があり、それを守ることで自分たちは楽しく生活できたことを思い出しました。他にも学園で学んだことが自衛隊になって活かされている部分はたくさんあります。これからは、感謝するだけでなく、感謝を形で表したいと思っています。男性にも負けない立派な女性自衛官になって、北光学園にとってプラスの存在になれるような卒業生になることが今の自分の目標です。

施設職員の方より

入隊当初は訓練や規律が厳しいと泣きことばかり言っていました。途中挫折するのではないかと心配していましたが、持ち前の頑張り精神で辛い時期を乗り越えたようです。8月の休暇に、訓練の様子や隊の生活状況を楽しそうに話しているのを見て、見違える程たくましく元気な姿に安心しました。父親も自衛官ですが、あれ程嫌がっていた父に対し「自衛官一筋に仕事をしている父を尊敬する」と言っていたことがとても印象的でした。

将来の夢に向かって

■沖縄県 沖縄県立石嶺児童園 出身 自立支援

施設を出て、内地で暮らすようになって食事を作ったりお金の管理などいろいろと大変で、施設の職員の方々に支えてきてもらっていたことを改めて実感しました。仕事では、技術職ということもあり、おぼえることがたくさんあって大変ですが、会社の上司の方がわかりやすく教えてくれるので、日々新しい技術や知識を吸収し、成長しています。また第一種電気工事士の資格試験を受ける予定で、資格勉強をしています。仕事で遅くなることもありますが、毎日1時間程度時間を作って頑張っています。住み慣れた沖縄から離れ、いろいろと不安なこともありますが、毎日一生懸命に仕事や勉強をして、少しずつ将来の夢に向かって努力していきます。

施設職員の方より

本児が当施設を退園し、名古屋にて就業に就き半年が経過しました。勤務先の経営者の方へ近況を伺ったところ、真面目にコツコツと仕事に励んでおり、職場の先輩方からも見込みある新人ということで可愛がられているとのこと。本人も業務の傍ら、資格試験の勉強に励んでいるようです。先日、第1種電気工事士の筆記試験に合格したとの報告もありました。仕事の面では、将来的に独立したいとの夢もあるようで、支援を受けたご恩に応えようと、日々頑張っているとの話をしていました。

自分の夢は公認会計士

■東京都 渋谷区立母子生活支援施設 出身 育英奨学支援

大学に入学して、半年が過ぎようとしています。入学当初は新しい生活に慣れるのか、とても不安でした。しかし、今では友だち、サークルの先輩方のおかげで毎日楽しく過ごさせていただき、不安はなくなりました。私は公認会計士をめざしていて、サークルは会計士をめざす人がたくさんいるところに所属しています。大学に入ってさまざまな人に会い、視野が一気に広がりました。そのおかげで今まで自ら踏み入れることができなかった場所や考えの領域に入れることができました。大学という一つの社会に出て、改めて自分の夢は本物だと気づかされました。今支えてくれる家族、先輩、友だちなど大変感謝しています。また、大学へ通えることに改めて感謝しています。

施設職員の方より

施設を訪れる度に学校のこと、サークルのこと、今頑張っている勉強のことや先輩友人関係など、とても楽しそうに話してくれ、充実した大学生活を送っている様子が手に取るようになります。また、いかに昼食代を節約するか、コンパに誘われたらどうするかなど、出費を抑える努力をしているようで、目的(卒業旅行)のためのバイトをするなど、こちらが感嘆することもしばしばです。本当にこの度の支援をありがとうございました。

今、一番強く感じること

■東京都 児童養護施設 出身 育英奨学支援

大学の生活にもやっと慣れてきました。毎日が新しいことの連続です。勉強はとても難しく、部活も毎日ありとても大変ですが、とても充実した日々を過ごしています。大学生になって初めて分かったことはたくさんありますが、一番強く感じることは「人と人の結束の大切さ」です。自分の友人や家族、そして先輩や先生、後輩、自分を支援してくれる人との結束、つながりの大切さ、強さを再認識しました。さまざまな方の精神的、金銭的な支援によって、今自分が学校に通い安心して生活できることの大切さ、幸せを実感しています。また、これから大学生活を続けていく上で、しっかりと自分が将来何をしたいのかを考えながら生活していく必要があるとも感じています。

施設職員の方より

本人は母宅で生活しているため、現在は時々顔を合わせる程度ですが、大学生活への前向きな話が多く安心して聞いています。大学では、さまざまな出会いがあるようで、自分の将来について現実的に考えることができるようになっていっています。夢を追うことから将来お金をきちんと稼いで生活していけるのか、そのためにはどうすればよいか、など。施設生活では多少甘えもあったと思いますが、退寮後は厳しい現実もみえてきているのだと思います。

紹介ひろば

支援した子ども達が生活した施設の先生方に施設内の様子や子ども達の様子をうかがいました。

児童養護施設 歌棄洗心学園

施設データ	
●施設名称	歌棄洗心学園
●施設長	片山好彦
●所在地	北海道寿都群
●経営母体	社会福祉法人 徳美会
●種別	児童養護施設



「さまざまな問題にチームで取り組み子ども達の成長をサポート」

歌棄洗心学園は、北海道で最も海に近い施設です。目の前に寿都湾を望み、背後には天狗山の大自然が広がる環境に、1951年開設され、現在は2歳から高校生まで76名が共に生活しています。2006年からは6人制の小規模施設「せんしん寮」も併設されました。「道内施設の耐震化整備が進む中、当園も2012年3月に新園舎が完成し、子ども達は8人部屋から小学生4人、中・高校生2人に分かれ、皆で過ごすDルームも充実しました。広々としたお風呂も好評で、子ども同士のトラブルもぐんと減り、落ち着いてのびのびと暮らしています」と語るのは、地域の児童相談所に長く務めた後、同園に赴任して5年半になる片山園長。かつてはニシン漁で栄え、江差追分の歌詞にもうたわれた歌棄(うたすつ)の周辺には、5つの養護施設があり、道央

や道南から毎年多くの子ども達が入所してくるとのこと。交通の便も少なく、遊技場所もないこの地は、近隣小学校の児童の半数が当園の子ども達という特殊な環境でもあり、地域ぐるみでの養育が定着しているようです。「地元高校とも密接に連携し、服装や言葉遣いなど厳しく指導していただくため、卒園生の評判も良く、早々と就職の内定をいただいています。ただ、ほとんどが札幌など都会での慣れない一人暮らしをすることになります」。在学中アルバイト先もなかった彼らの自立援助のために、支援が活用されました。「自分には支えてくれる大人がたくさんいる、一人ではないのだという気持ちで頑張ってもらいたい。こうした願いを汲んで、最近、福祉関係の仕事我希望する卒園生も増えていることが、職員達の大きな励みにもなっています」。

先生からのメッセージ

「卒園生が教えてくれる養護教育の原点」



主任指導員
松永 勲先生

海と山に囲まれたこの小さな村には、函館や札幌、苫小牧などから、家庭問題などが原因で非行に走ってしまった子ども達がやって来ます。隣町出身の私は、大学在学中からボランティアとして道内各地の施設を巡り、一人の力は小さくても、皆で協力し合い、こうした子ども達の未来をサポートしていきたいと、この道に入って24年になります。当初は、家庭や将来への不安から自暴自棄になる児童達に接して、悩んだ日々もありましたが、今は卒園生が師匠です。社会に出て働き、結婚して家庭を築いた彼らが、「ここがお父さん、お母さんの育った家だよ」と、子連れで当園を訪ねてくれるのです。心の余裕を取り戻した彼らの言葉は、本当に価値あるアドバイスです。特に担当児童の問題に悩む若いスタッフには、いろいろな解決法があることを教えてくれ、むしろ私達を支える存在になっています。以前、卒園生にいわれました。「ただいま」と帰ってきたら「おかえり」と迎えてくれる園になってほしい。風力発電の風車が回る、何もない穏やかな風景が、家族に向き合い、自分を見つめ直し、リセットできる、彼らの故郷そのものになってほしいと願っています。

事務局だより

ご報告 「子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー」に出展しました

子どもへの虐待を防止しようと、2007年から始まったオレンジリボンたすきリレー（神奈川・東京）が今年も10月28日に開催されました。約400名のランナーが子どもへの虐待防止を呼びかけました。また、ゴールの横浜新港中央広場では子ども支援を行う団体がブースを出展。未来のつばさ財団も参加し、一般の方に活動のPRと子どもへの虐待防止を呼びかけました。



皆で手を取り合いゴールしました



ブースでは風船、法人案内などを配布しました



エキスパートアライアンス、アイリオ生命関係者の皆さんにご協力いただきました

ご協力に感謝!! 書き損じはがき回収によるボランティア活動

自立支援金を贈る子ども達を増やそう! 支援する子ども達を増やそう!と、今年度もアイリオ生命の皆さまが書き損じ・未使用はがきの収集ボランティア活動に取り組んでいただいています。昨年度はエキスパートアライアンス株式会社とともに書き損じ・未使用はがきの寄付を募り、ボランティア期間中の現金寄付とあわせ19名分にあたるご寄付を頂戴いたしました。しかし、年々応募者が増えてくる中で、応募者に対し、約4割の子どもにしか支援が出来ていない状況です。

2011年度実績 応募者458名 支援者171名

約3,400枚のはがきを集めれば子どもが1人支援できることから、今年度の支援に間に合うように11月～1月の3ヶ月間と期限を決めて、お声をいただいています。今年は昨年度はがきをご寄付いただいた方が、ご自身のまわりの方々へ声をかけ、自らはがきを集めていただいているとの報告もいただいております。皆様の献身的なご活動に事務局一同、心より感謝申し上げます。

また、昨年度集まったはがきと切手を購入いただいたアイリオ生命保険株式会社様、エキスパートアライアンス株式会社様のご協力にも、あわせて感謝申し上げます。

このボランティア活動へのお問い合わせはアイリオ生命の社会貢献推進部(☎03-5520-1647)までお願いいたします。



応募要項

1. 支援対象

次の子ども達が対象となります。

- ① 児童養護施設入所の児童
- ② 母子生活支援施設入所の児童
- ③ 里親家族の児童
- ④ ファミリーホームに入居している児童
- ⑤ その他の児童福祉施設に入所している児童

上記で、原則として18歳を迎え進学、就職する予定の児童が対象です。

2. 支援内容と支援金額

- ① 進学者への支度金として
一人15万円 (大学・短大・専門学校など)
- ② 就職者への支度金として
一人15万円

支援資金の返済義務はありません。

3. 2012年度の支援予定者数

進学者50名 就職者105名の予定

4. 選考方法

申請書類に基づき、当財団の選考委員会によって書類審査を行います。

5. 申請書類

詳細については、当財団HPをご覧ください。

6. 申請受付期間と選考結果の通知

受付期間：2012年12月1日～2013年1月25日必着
結果通知：2013年2月末日結果通知 (郵送)

7. 申込先

申請書類は当財団事務局へ提出してください。

※詳しくは当財団ホームページをご覧ください。

<http://www.mirainotsubasa.or.jp>

申請受付から選考、支援完了までのプロセス

12月1日～

書類受付
開始

- ・申請書
- ・推薦状
- ・本人の作文
- ・質問用紙
- ・調査書
- ・施設パンフレット
- ・志望校案内書
- ・児童委託証明書
- ・親権者の
収入証明書

1月25日
応募締め切り

2月末日

結果通知
発送

- 送金に必要な
書類の提出受付
- ・誓約書
- ・銀行口座届出書
- ・合格・内定通知

3月20日

送金受付
締め切り

入金を確認した
ら受領書を送っ
てください。

4月末日

在学・在籍
証明書提出

学校で出して
もらったものを、
送ってください。

8月1日

近況報告書
提出依頼

こちらから、用紙
を送りますので、
ご記入のうえ、提
出してください。

～10月末日

近況報告書
締め切り

提出をもって支
援完了とします。



公益財団法人

未来のつばさ財団

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-10
日本橋インテリジェントフラッツ402
電話:03-5642-7890 FAX:03-3249-7870
E-mail:info@mirainotsubasa.or.jp



特定非営利活動法人

エキスパート児童福祉支援協会

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-10
日本橋インテリジェントフラッツ402
電話:03-5642-6330 FAX:03-3249-7730
E-mail:info@ex-child.or.jp